

第 6 回耐震設計規格委員会
議事録

I. 日 時 令和 5 年 6 月 1 5 日（木） 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

II. 場 所 WEB 会議

III. 出席者：(敬称略・順不同)

委 員 ： 渡邊（委員長）、盛川（副委員長）、古屋、因幡、坂井、堀野、田附、大
江、藤田、渡辺、市川（雄）、片岡、吉岡、清藤、市川（泰）、岡田（季）、
中山（岡田（沙）委員代理出席）

オブザーバ ： 飯田（経済産業省）、畑山（経済産業省）、山崎（神奈川県）、中山（神奈
川県）、佐野（サイサン（株））、森山（三菱重工業（株））

K H K ： 越野、小山田、名倉、高橋、木全、大野

IV. 配布資料

資料 2 5 KHKTD の制定について

資料 2 5 - 1 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル 1）の解説 KHK TDXXXX(案)

資料 2 5 - 2 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準(レベル 1)の評価例 KHK TDXXXX(案)

資料 2 5 - 3 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル 2）の解説 KHK TDXXXX(案)

資料 2 5 - 4 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準(レベル 2)の評価例 KHK TDXXXX(案)

資料 2 5 - 5 KHKTD 案に対する委員コメント

資料 2 6 耐震設計規格委員会の令和 5 年度計画等について

資料 2 7 技術基準策定手順書の改正について

資料 2 7 - 1 技術基準策定手順書 新旧対照表（案）

資料 2 7 - 2 技術基準策定手順書（改正案）

参考資料 1 2 第 5 回耐震設計規格委員会議事録

参考資料 1 3 技術委員会規程

参考資料 1 4 規格委員会規程

V. 議事概要

1. 定足数報告

事務局より委員の紹介と定足数の報告があり、全委員数 2 2 名に対し、委員出席 1 7
名（代理含む）で定足数（全委員数の過半数以上）を満足している旨があった。

2. 議事（1）前回議事録について[第 5 回書面投票にて決議済み]

事務局から参考資料 1 2 により前回議事録の説明が行われ、確認された。

3. 議事（2）KHKTD の制定について[決議事項]

事務局より、資料 2 5 及び資料 2 5 - 1 ~ 資料 2 5 - 5 に基づき KHKTD(案)について

説明が行われ、以下の質疑があった。

(委員) KHKTD の案自体には異論はないが、KHKTD がどういうものなのかを何らかの形で周知することは可能か。また、KHK 指針はかなり普及しており、人によっては細部まで覚えている方もいると思う。今回 KHK 指針が KHKTD に置き換わった際に、どこがどう変わったのかを示すことはできないか。

(事務局) 周知に関しては、KHKS 発行の際と同じように説明会を開催できればと考えている。変更点を示すことに関しては、KHK 指針等の誤記、数値上の誤差を変更している部分があることから、新旧のような形は現実的ではないので、主要な変更部分を説明会の中で説明するという形にできればと考えている。

(委員) 可能であれば、説明会も参加できなかった人に向けてホームページなどで閲覧できるなどの工夫をしてもらえると助かる。また、昨今はリモートワークが増えていることから、紙媒体だけでなく電子媒体での発行も検討してほしい。

(事務局) ご意見は承知した。可能かどうか検討する。

(委員) 第 6 回委員会前の KHKTD 案の事前送付前に、第 5 回委員会後に提出したコメントについての回答がなかったのか説明してほしい。確認内容のひとつとして、前回のコメントに対してどのような反映がされたのかが、確認ポイントであると考えている。第 6 回前の KHKTD 案送付前に第 5 回で提出したコメントについての協議状況がわかる方が内容確認する上で好ましかったと考えている。

(事務局) 案の修正にかなり時間がかかってしまい、第 6 回委員会前の事前送付の際に対応状況を示すことができず大変申し訳ない。今回 KHKTD の制定にはかなり時間がかかっているが、もともと KHK 指針の電子ファイルがないところからスタートしており、ページ数も 900 ページ程度とかなり多く、KHKTD 案作成の際に KHK 指針から写す際にタイプミス等が多くあったことから、その修正に非常に時間がかかり、第 5 回後にいただいた意見に対しての対応状況を第 6 回前の事前確認の際に示すことができなかった。

(委員) KHKTD 案への直接の意見ではないが、基礎の設計例は、色々な分野の基準を採用しているが随分古いものがある。例えば、KHKTD で引用している建築基礎構造設計指針は 1988 年であり、現在のものは大きく変わっている。KHKTD は古い基準を引用している部分が散見されるが、今後、最新基準にどのように整合していく考えなのか。

(事務局) ご意見の通り、現状は古い基準をそのまま採用している。理由としては、KHKS が基にしている旧耐震告示が古い基準を引用しており、KHKS は旧耐震告示の規定をそのまま踏襲することとしたため、KHKTD も古い基準を参照している箇所が多くある。特に基礎の評価例部分に多い。次の議題の 3 か年計画で今後の計画を説明するが、今年度から KHKS の見直しに着手することとしている。基礎の規定部分で参照している基準がかなり古いものであることから、KHKS の見直しにおいてアップデートすることが必須項目と考えている。ただし、最新の基準を採用できるかはかなり議論が必要と考えている。例えば、最新基準では、限界状態設計、信頼性設計を導入しているものもあり、高圧ガス分野も信頼性設計に踏みこむ形でそのまま採用してよいかは検討が必要と考え

ている。

(委員) 高圧ガスでは基礎部分は建築関係の基準をそのまま取り込むというのが昔からのポリシーであるように聞いているがどうなのか。

(事務局) 旧耐震告示は、制定当時は建築、平成 9 年のレベル 2 地震動導入の改正時に、地盤関係は土木の基準を取り入れているように思う。

(委員) 土木関係については、何年版かをあまり気にしなくてよいのではないか。

(事務局) 平成 9 年から時間がかなり経過しており、現在においては、引用している基準はかなり古いものとなっており、最新版は考え方が大きくかわっているものもあり、アップデートは必要と考えている。

(委員) 年指定なし（常に最新版とする）というのもゴールのひとつとしてはあるかと思う。

以上の質疑後、挙手による採決が行われ、出席委員全員（17 名：代理含む）の賛成により資料 2 5－1～資料 2 5－4 の KHKTD（案）は可決された。以降、資料 2 5 のスケジュールのとおり、KHKTD の制定手続きを進めることとする。

4. 議事(3) 技術基準整備 3 ケ年計画（令和 3 年～令和 5 年度）について[決議事項]

事務局から資料 2 6 に基づき令和 5 年度技術基準整備 3 カ年計画（案）について説明が行われ、以下の意見があった。

(委員) 計画が遅延することがないように進めていただきたい。

その後、挙手による採決が行われ、出席委員全員（17 名：代理含む）の賛成により令和 5 年度技術基準整備 3 カ年計画（案）は可決された。

5. 議事(4) 技術基準策定手順書の改正について[決議事項]

事務局から資料 2 6、資料 2 6－1 及び資料 2 6－2 に基づき技術基準策定手順書（改正案）について説明が行われた。

特段意見はなく、挙手による採決が行われ、出席委員全員（17 名：代理含む）の賛成により技術基準策定手順書（改正案）は可決された。

6. 議事(5)その他

(事務局) 耐震設計規格委員会の第Ⅱ期については、2023 年 6 月 30 日で委員の任期が満了となり、2023 年 7 月 1 日より第Ⅲ期の耐震設計規格委員会となる。引き続き委員をお願いしたいと考えており、再任の手続きを進めさせていただきたい。

以上